

文庫あれこれ◆残暑お見舞い申し上げます (8.13)。明日から 1 週間文庫を開けます。お掃除も、棚の整理もまだですが、みなさんの元気な顔に合えるかと思うと今から楽しみです。でも、どこかへお出かけとか、お孫さんやら親戚の来訪で来られないかな?◆2,3 日雨もよいの日が続きましたが今日は晴れ。でも一時の暑さはどこへやら、だいぶ凌ぎやすくなりました。◆子ども会員はどこへでかけたかな? 何をやったかな? 夏休みの宿題始めるころかな?◆私の夏休みは、1 週間ほど、子どもの本大好き人間グループに誘われて北欧 3 国を旅してきました。飛行機で約 10 時間、ヘルシンキで 1 日過ごし(今回の電腦大魔人のお言葉ではありませんが、大統領も首相も女性。教育成果はピサの結果でご存知のこと。よそから見れば羨ましいことしか見えないのでしょうか、人々がゆったり、生活を楽しんでいる様子でしたよ。もちろん白夜?で 10 時頃でも明るかった。◆次にバルト海を豪華客船でストックホルムへ。市庁舎のノーベル賞授章式晩餐会会場やダンスパーティ会場など観光スポットも見学しましたが、私たちの目的はアストリッド・リンドグレーンの本の世界を体験すること。これらは、JTB のガイドブックにもない素晴らしいところです(雨にふられねばもった)。◆ストックホルムから約 1000 キロ 2 日かけてバスの旅。『ニルスの不思議な旅』の大地版? コペンハーゲンに着きました。アンデルセンの人魚像は、上海万博に出演して留守でした。ここでは、街を散歩。若い仲間は街中にあるチボリ公園で夜中まで遊んだようですが、駆け足旅行で疲れの出た老人組はアンデルセンが大好きで長年住んだと言われるニューハウンド、好きなものを乗せて食べるオープンサンドや、ビール、土地のお花(名前失念)からとれるジュースを食べたり飲んだり、ゆっくり買い物したり。でも一番の大事は、帰国の日、同室の人が朝食中にイスのうしろに掛けていたバッグを私の目の前で取られてしまったことです。お話に気を捕られていたとしてもまったく気づきませんでした。外国からの盗賊団の仕業とのことでした。というわけで、安全だと言われていた北欧も要注意。バッグとパスポートは肌身離さず、です。◆旅から帰ってはじめて時差ぼけを体験。こちらへきてやっと平常に戻りました。◆そこで、1 週間何も考えず、みなさんと本に埋れて過ごしたい、と考えているのですが、老母と孫を連れていたり、やっぱり仕事を抱えてきているので、できないかなあ。でも、3 冊は読むぞ!◆みなさんも暑さを追い払って読書の夏?を楽しみましょう。

〰〰 これからの催し物のお知らせ 〰〰

秋の夜長のおはなし会(昔話と創作)

10 月 16 日(土)5:30PM~
~お琴の演奏もあります~
小学生以上でゆっくりおはなしがきける人ならどなたでもどうぞ!

クリスマスおはなし会・おたのしみ会

12 月 19 日(日)10:30AM~12:00
会員ならどなたでも。ひとつ 300 円程度のプレゼントをご用意ください。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆9 月は、18 日、19 日通常開館です。
 - ◆10 月は 16 日、17 日通常。
 - ▷ 16 日(土)夕方: 秋の夜長のおはなし会
 - ◆11 月は通常と違います。13 日、14 日
 - ◆12 月は 18、19 日の通常開館です。
 - お願い: 19 日(日)は★クリスマスおはなし会・おたのしみ会があります。恐れ入りますが、会に参加されない会員の方は、午後からお越しください。
 - ※文庫の時間: 土曜日は午後 2 時~5 時、日曜日は午前 10 時~午後 3 時
 - ※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前 10:30~11:00
 - ♥文庫開館日は毎月、第 3 日曜とその前日の土曜日の 2 日です(従って第 3 土曜日でなく第 2 土曜日ということもあります)。
- 《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会 (おはなし・沙羅)
★9 月は 18 日(土)です。次のおはなし会

連絡先: 沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

沙羅の樹文庫便り

No.48 (2010 年 8 月号)



暑い夏でしたね!
(まだ真盛りですが)

先月の文庫の誕生日と海の日のおはなし会のあと、すぐ北欧に行ってきました。

ムーミン(トーベ・ヤンソン)や、ピッピや、やかまし村(リンドグレーン)のなつかしい世界を楽しんできました。

でも、北欧も 70 数年ぶりの猛暑でした!



今月文庫は 14 日から 22 日まで開けています。たくさん本を読みきてください。

文庫開館記念子どものためのおはなし会 10.07.18

いつもは、文庫が生まれた『海の日』に開催するのですが、今年は、前日の日曜日でした。残念なことに、みんな水泳大会だとか、いろいろな予定が入っていたらしく、参加者はいつものようには多くなかったのですが、姫シャラの下でのおはなし会では、岩手や東京からきてくれたおはなしのおばさんたちが、おはなし、よみきかせ、かみしばい、わらべうたなどをきかせてくれ、みんなで楽しみました。あとで文庫スタッフさんたちが作ってくれた風車で遊びました。



10周年記念・伊豆高原「海の日のおはなし会」

2001、やまもプラザのパティオで始まったおはなし会が早いもので10年続きました。今年はTくん、Kくんの兄弟、4年のTくん、そしてYちゃんとKちゃんが詩を読んだり、憶えたおはなしをしてくれ大活躍でした。来年もやりたい!と意欲的です。声に出して人になにかを伝えたい、という心は自分にもいろいろなプレゼントがかえってきます。ほとんどの語り手が10年間続けて遠くから来てくれました。ありがたいの感謝を捧げます。そして、時々参加して会を盛り上げてくれるアコースティックポップトリオ・Akinoにも。今年はみんなもいっしょに、海やみかんの花咲く丘を



うたいました。これから、絵かきーの地に浸透して伊豆高原の風物詩になるといいな、と思います。

最近お借りした本についての読後感 その2

By 森林浴 10.07.16

- ②「高峰秀子の流儀」 斉藤明美著 新潮社
私が高峰秀子に特別な関心をもったそのきっかけは唯一つ、彼女の出演したある映画の一場面である。大昔に観たその映画の題名も観た場所も全く思い出せないのだけど、彼女が戦争で恋人(許婚だったかな)を亡くした傷心の身を、湘南(だったかな)の海辺の芝生に座って夕暮れ(だったかな)の遠い水平線を見つめているという場面で、その見つめている目の視線の強さにびっくりしたことに尽きる。それは単なる俳優の演技の目ではなく、まるでこの世の不条理を見尽くしたとでも言うべき深い絶望感があったような気がする。まあこれは多分に私の若気の思い込みだったのでしようが、しかし高峰秀子は特別に賢く強い人ようだ。この本はそこがよく描けている。
- ③「次郎と正子—娘が語る素顔の白州家」 牧山桂子著 新潮社
白州次郎と正子は今や伝説の人になり、若干神話化されている点さえ見受けられるようになったが、これはお二人の娘が普段着の欠点だらけの人間としての両親を素直に描いたもので、時には笑いを呼ぶような箇所もある。どんな人間も家庭生活のなかで観察されれば、欠点だらけで、愛すべき愚か者みたいなところがあるものです、と、かえって親しみが湧きそうだ。

日本人へ(リーダー編) 塩野七生著

48歳のときに家内と一緒にイタリアに旅行をしました。なぜイタリアだったかという、塩野七生の大ファンだった家内の影響で、「ローマ帝国」とか「カエサル」「ドーチェ」などという言葉を目にしていたので、夫婦でいならイタリアだなど約束されていました。まだまだ若くて元気だったので個人旅行(F=フォーリン・Fインデペンデント・T=ツアー)にしました。練りに練った2週間の日程でゆったりしたプランをたてました。朝は9時にホテルを出て、夕方4時にはホテルに戻り、一風呂浴びてからディナーへ出かけるという団体旅行では味わえない贅沢さでした。それ以来イタリアは私達夫婦のお気に入りのスポットです。

・・・お二人の紹介文は7月に寄稿して下さったものです。

さて「イタリア旅行記」は別の機会に譲るとして、今月は塩野七生さんの「日本人へ」リーダー編を読ませて頂きました。月間「文芸春秋」に連載されてたのを文庫本にまとめたせいで、短編の政治評論集として読みやすく随所にワサビが効いていて、国際政治の中の日本を俯瞰するには格好の読み物でした。

国際結婚して海外で暮らす女性は、皆澆刺として働いていました。それに比べて国際結婚した男性は、昼夜の奉公でみなゲンナリして早く日本に帰りたいという顔をしています。

いつも家内に、どうして日本はできないの・・・どうして日本はだめなの・・・どうしてどうしてと質問攻めにされる私、さりとてシンガポールに移住できる甲斐性もなく、日本にしがみついで生きていくしか道はなし、いっその方に日本の総理大臣をお願いしたら・・・と家内に言ってます。

女性は物事を単純化し事の本質を見極めるのがうまいですね(蓮舫さんみたい)
男性は格好付けて、ことさら複雑な言いまわしをして(Yes か No かわからん)挙句の果て自滅しちゃいます。

格闘技大好きな内館さん、チャンバラや強い男が大好きな塩野さん、みんな男を誤解してます。
真のリーダーとは自然の中から生まれる天性のもので、決して家柄や教育でつくれるものではないのです。あの人のためなら死んでもいい、あの方とならばどこまでも一緒にいきたい(ドラマではよくありますが) そういう人は100年・・・いや300年に一人くらいしか産まれないうと思っていたほうがいいですよ。

男って概して決断力に欠け、うじうじした女々しい生きもの。だから群れを作ってリーダーを待っている、おたくの旦那もそうじゃない。
女って清く正しく美しいと思っていたのも幻想に過ぎなかったと、今更ながら後悔しても始まらないけど。今の時代はリーダー大量生産時代です。リーダーが足りないからリーダーを作らなければならない、需要と供給の関係みたいなものです。(仕事の割には報酬がいいからネコも杓子も議員になりたがります)

「JAPAN as Number ONE」という時代とともに歩んできた世代として、もう助けてくれ・・・というしか言葉がない今の日本、どうにかなるでしょうか～塩野さ～ん。次号は「日本人へ」国家と歴史編 ということで。(電腦大魔王)

新しくいった本

子どもの本

『海は生きている』(富山和子著 講談社)
『白雁物語』(ギャリコ作 借成社文庫)
『リキシャガール』(パーキンス作 鈴木出版)
『すみ鬼にげた』(岩城範枝作 福音館書店)
『こぶとりたろう』(高樓方子作 童心社)
『ミリーのすてきなぼうし』(きたむらさとし作 BL 出版)
『タンタンの冒険旅行 10、15』※リクエスト

以下、広瀬恒子、小林啓子さんより寄贈受けました。

読み物(日本)

『ぼくとあいつのラストラン』『ぼくの夏休み革命』『ヤマトジミの食卓』『東海道は日本晴れ!!』『リボン』『扉を開けて』ほか 5 冊

読み物(外国)

『パーシーと気むずかし屋のカウボーイ』『コブタのしたこと』『キャットと魔法の卵』『たいせつなともだち』『不幸な少年だったトーマスの書いた本』『シートン動物記—狼王ロボ リスのバーナテイル』(2 冊)ほか 3 冊

絵本

『だ〜れだ?』『ちいさなあめふりぐも』『ちいさなタグポート ポップ』『ねずみさんのおかいもの』『大きな大きな船』『からからからが…』

ノンフィクション

『トリケラトプスとスピノザウルス』『どうしてそんなかお?—むし』『イルカわたしの病院、犬がくるの』『水草の森』『いっしょにつくろ! エコこうさくえほん—びん・かん・プラスチック』『アリ・ハチのなかま』『海獣図鑑』『遺伝子・DNA のすべて』

ノンフィクション(読み物)

『カタツムリはサーカス名人?』『暮らしのふしぎ』『奇蹟のプレイボール』『家族になった 10 頭のクマ』『木の声が聞こえますか』『北方ルート サハリンの旅』

詩・昔話

『ねぎぼうず』『ぼくたちはなく』『ゴハおじさんのゆかいなお話—エジプトの民話』

沙羅の樹文庫だより no.48-2 2010 年 8 月号

★印は文庫にある本です。

第 56 回青少年読書感想文全国コンクール 課題図書一覧 2010

小学校低学年の部

『ミリーのすてきなぼうし』(BL 出版)★
『とっておきの詩』(村上しいこ作 PHP 研究所)
『むねとんとん』(さえぐさひろこ作 松成真理子絵 小峰書店)
『いじわるなないしょおぼけ』(ティエリー・ロブレスト作 フィリップ・ホーセンス絵 文溪堂)★

小学校中学年の部

『こぶとりたろう』(童心社)★
『点子ちゃん』(野田道子作 太田朋絵 毎日新聞社)
『ともだちのしるしだよ』(岩崎書店)★
『やんちゃ子グマがやってきた!』(あんずゆき文 フレーベル館)

小学校高学年の部

『すみ鬼にげた』(福音館書店)★
『建具職人の千太郎』(岩崎京子作 くもん出版)★
『リキシャガール』(M.パーキンス作 鈴木出版)★
『海は生きている』(富山和子著 講談社)★

中学校の部

『明日につづくリズム』(八東澄子著 ポプラ社)★
『ビーバー族のしるし』(E.J.スピア著 あすなる書房)★
『奇蹟のプレイボール』(大社充著 金の星社)★

高等学校の部

『風をつかまえて』(高嶋哲夫著 日本放送協会)
『ハサウェイ・ジョウズの恋』(カティア・ヘーレンス著 白水社)
『インパラの朝』(中村安希著 集英社)★

新しくいった本

大人の本

『一〇〇年前の女の子』(船曳由美著 講談社 2010)
『お父さんとオジさん』(伊集院静著 講談社 2010)
『シューマンの指』(奥泉光著 講談社 2010)
『闇彦』(阿刀田高著 新潮社 21010)
『幻海』(伊東潤著 光文社 2010)
『乙女の密告』(赤染晶子著 新潮社 2010)★芥川賞受賞
『小さいうち』(中島京子著 文藝春秋 2010)★直木賞受賞
『遊牧夫婦』(近藤雄生著 ミシマ社 2010)
『家族トランプ』(明野照葉著 実業の日本社 2010)
『湖底の城 1』(宮城谷昌光著 講談社 2010)
『ダリア』(辻仁成著 新潮社 2009)※リクエスト
『静子の日常』(井上荒野著 中央公論社 2009)※リクエスト
『ヨーロッパ各停列車で行くハイドンの旅』(児井正臣著 幻冬舎ルネッサンス新書 2010)※リクエスト
『永遠の0』(百田尚樹著 講談社文庫 2010)
『打ちのめされるようなすごい本』(米原万理著 文春文庫 2009)

♥平和を願って♥ (特設コーナー)

『ひろしまのピカ』『紅玉』『ぼくがラーメンたべるとき』『せかいいちうつくしいぼくの村』『えほん日本国憲法』『なぜ戦争はよくないか』『かさをささないシランさん』『クラウディアのいのり』『おとうさんのちず』『母からの伝言』『6わのからす』『Oじいさんのチェロ』『たったひとりの戦い』『あなたがもし奴隷だったら…』『ヘンリー・ブラウンの誕生日』『ともだちのしるしだよ』『キング牧師のカブよいことば』『彼の手は語りつぐ』『ながいながい旅』……これは絵本だけです。読み物もたくさんあります。大人向きも。

8 月です。考えてみませんか!

♥文庫の本の中からピックアップしてみました。

(中西)